



岩熊松樂園 四代目

# 岩熊秀樹

くるめ南部商工会

# 「岩熊松樂園」

黒松、五葉松を中心に、植木の育成、仕立てを行っている。

1980年代までは国内での需要が高かったが、バブル崩壊後、市場は海外へと広がった。

現在、中国、台湾、ベトナム、ヨーロッパなどに出荷。

販売だけでなく、メンテナンスのため、海外に出向くことが多い。



手入れのなされた松が並ぶ。毎年、時期をずらしながら剪定し、バランスを考えて枝を曲げていくという



国により、輸出のルールは違う。EUに出荷する松は、土壌消毒をしたのち、地上から50cmの高さに約2年置くのだそう

■Data ☎ 0942-64-2385 住所／久留米市三潴町西牟田94-1-2

Three Questions  
匠人  
たくみ  
3に聞く  
のこと

1 自分の性格を  
ひとことで言うと？

B型で自己中心的、笑。意外と  
マメなところもあるので、段取り  
をつける役目は向いているかも。  
わからないことがあれば、す  
ぐ詳しい人に連絡して、教えて  
もらうようにしています。

2 まちなかの  
お気に入りの場所は？

すぐ近くの「十連寺公園」です。  
小さい頃から遊んでいた思い出  
の場所でもあります。展望台  
から植木畠が見下ろせるんで  
すよ。あの風景は、みづまならで  
はです！

3 秀樹さんの  
宝物は？

父や祖父たちが代々築いてき  
た人脈ですね。お金がない時  
でもつながってくれる人たち。  
人はお金じゃ買えませんから  
ね。これからも大事にしていき  
たいです。

# 「みづまの黒松は世界一」

## 確かに手応えを誇りに 海外に挑む！



Profile 岩熊 秀樹さん  
昭和48年、三潴町生まれ。曾祖父の代から続いてきた岩熊松楽園の4代目。二人の息子さんは県外で独立。現在、両親、妻、娘さんとの5人暮らし。体力勝負の仕事なので、朝食は絶対ご飯派！

松の仕立ては、  
女優を育てるようなもの!!

広い敷地に、松、松、松。敷地内に、神社や日本庭園で見るような立派な松がぎらり。あっけにとられていないと、「さあさあ、こちらへ」と明るい声で私たちを誘う声がする。その人たちは、岩熊松楽園4代目の後継者、岩熊秀樹さんだ。両親と秀樹さん夫婦の4人で、黒松200本、五葉松200本、そのほか、マキやモチノキ、ツツジなどを育てている。

松を育て、仕立てていくのは、女優を育てるようなものだという。「私たちは本州や四国から、あまり手入れっていない松を仕入れてくるんです。そこから、月日をかけて育っていく。ほら、芸能界なんかでも、最初はなんでもないフツーの子が、デビューする時、すっかり洗練されてしまう。松の仕立ては、そんなイメージですよ」。軽快なトークと、いつなずいてしまうたとえ話に、いつのまにか引き込まれていた。なるほど：松を一本、一本、じっくり見てみると、スマートで若々しい松があれば、太い幹が分厚いうろこのような皮に幾重にも覆われた老松もある。不思議な曲がり方をしている個性派もいれば、小ぶりながら完成された世界観を醸し出す松も。いや、ベテランと、いろんな役者が揃っている。ココは松のワンドーランドだ。



わたしの  
愛情熱  
の泉

### [やっぱり家族！]

仕事を頑張るのは、家族を幸せにしたいから。家族経営なので、ご両親や奥様とは、朝、昼、晩と一緒にだが、夕食時に家族で仕事の話をすることも、ストレスの解消になっているそう。

想定外！まさかの世界進出

秀樹さんが、家業を継ぐと決めたのは、高校2年生の時。「頑張れば、サラリーマンより稼げるよ」そんな父の言葉に背中を押され、卒業後、そのまま父のもとで働くことに。しかし、ほどなくしてバブルが崩壊。庭に立派な松をほしがる日本人がいなくなつた。23歳で結婚した秀樹さんは、「どうやって食べていいこう」と、途方に暮れた。しかし、「売れなくて、評判が広まり、海外からお客様が来るようになつたのだ。中国、台湾、ベトナム、ドイツと、秀樹さんと評され、ブランド品なのだそう。

そうやつて耐え忍ぶうちに、追い風が吹き始めた。「九州の松は良い」と、評

みづまの生産者が育てた松が、海を渡つて世界に飛び出した。特にアジアでは、みづまの黒松は日本一と評され、ブランド品なのだそう。

秀樹さんらは、松のメンテナンスやアフターフォローのため、海外にも出かける。お客様から、「松の状態が悪いから、見に来てほしい」などの依

頼がくるという。師匠もあり、仕事仲間でもあるお父様と出かける。そうだが、自分たちが育てた松のために、海外出張とは素敵だ。息子さん、娘さんの目には、さぞカッコ良く映っているだろうと、秀樹さんに水を向けると、「何も思わんでしょう」と、大笑い。この率直で、素朴な人柄こそが、秀樹さんの魅力だ。

海外の人々と対等に仕事をするため、同業の若手の仲間とともに研究や活動を続けているといふ。「好きな人たちと一緒に仕事して一緒に飲めるのが一番の幸せ」と、満面の笑み。グローバルな仕事を手掛け、夢を語りながら飲むお酒は、格別に嬉しいことだろう。

1本の松を仕立てるには、数十年かかるといふ。「自分が小さい時に父が植えていたのが、今、商品として成り立つくらい。人工的に少しずつ曲げていって、剪定していく。何年、何十年と仕立てていくんであります」。根気のいる作業のはずなのに、淡々と話す秀樹さん。松の寿命は、数百 年と長い。岩熊松楽園にも、樹

「今ではEJでも、認知されてるんです」。その言葉に、一瞬耳を疑つた。まさか、ここで「EJ」という言葉を聞くとは…。そんな私の動搖に気付いたのか、「いや、私も高校生の頃は思つてもみなかつたですよ。まさか、自分が海外の人と仕事をするとは」と、大笑い。この率直で、素朴な人柄こそが、秀樹さんの魅力だ。

海外の人々と対等に仕事をするため、同業の若手の仲間とともに研究や活動を続けているといふ。「好きな人たちと一緒に仕事して一緒に飲めるのが一番の幸せ」と、満面の笑み。グローバルな仕事を手掛け、夢を語りながら飲むお酒は、格別に嬉しいことだろう。

「これまで育てた『松』を海外に送り出してきたけれど、これからは自分をはじめ、『人』が走向くことで、仕立てやメンテナンスなど、みづまの技術を世界に広めていきたい」と目を輝かせる。きっと、大好きな仲間とともに、大きな夢を叶えてくれるに違いない。

### 夢は、みづまの技術を世界に。

秀樹さんは、松のメンテナンスやアフターフォローのため、海外にも出かける。お客様から、「松の状態が悪いから、見に来てほしい」などの依

頼がくるという。師匠もあり、仕事仲間でもあるお父様と出かける。そうだが、自分たちが育てた松のために、海外出張とは素敵だ。息子さん、娘さんの目には、さぞカッコ良く映っているだろうと、秀樹さんに水を向けると、「何も思わんでしょう」と、大笑い。この率直で、素朴な人柄こそが、秀樹さんの魅力だ。

海外の人々と対等に仕事をするため、同業の若手の仲間とともに研究や活動を続けているといふ。「好きな人たちと一緒に仕事して一緒に飲めるのが一番の幸せ」と、満面の笑み。グローバルな仕事を手掛け、夢を語りながら飲むお酒は、格別に嬉しいことだろう。

1本の松を仕立てるには、数十年かかるといふ。「自分が小さい時に父が植えていたのが、今、商品として成り立つくらい。人工的に少しずつ曲げていって、剪定していく。何年、何十年と仕立てていくんであります」。根気のいる作業のはずなのに、淡々と話す秀樹さん。松の寿命は、数百 年と長い。岩熊松楽園にも、樹